



市HP内掲載記事へ

単位:人

	R2.5末	前月比	R2.4末
0歳～14歳	1,481	-4	1,485
15歳～64歳	6,685	3	6,682
65歳～	3,914	-1	3,915
合計	12,080	-2	12,082

## 農業

二箇・月の輪田  
地元ブランドを推進

月の輪田は、三日月形の田んぼで、食物に深く関わる史跡です。稲作は豊受大神がこの田で初めて行ったとされ、この地域にある比沼麻奈為神社に祀られています。また、天照大神が天皇のもとに現れ、安らかな食事のために豊受大神を伊勢神宮の外宮へ遷宮するよう告げたと、伊勢神宮の社伝に記述があるそうです。

二箇区「月の輪田」保存会は、この歴史を後世に残し、地域活性につなげるために、月の輪田での古代米づくりを行い、故事にならった伊勢神宮外宮への奉納や、稲作発祥の地として地産米のブランド化や地酒「みかづき田（でん）」の生産、田植えを通した子供への歴史学習などに取り組んでおられます。



二箇区「月の輪田」保存会の皆さん

最近では名古屋など都会からの訪問客が増えているそうですが、今後もさらに多くの方に地産米や地酒を知ってもらいたいです。

## 地域

夏の風物詩  
花火で「悪疫退散」

新型コロナウイルスの感染拡大をうけて、全国各地で一斉に花火を打ち上げ、悪疫退散を祈願する「Cheer up! 花火」が、6月1日に開催されました。京丹後市峰山町の有限会社山崎煙火によって打ち上げられた花火が、京都府内で唯一のものとなりました。医療従事者へ感謝の意を表して、青色の花火を中心に、全部で75発が打ち上げられました。

代表取締役の池本真人さんによれば、江戸時代に始まった東京の隅田川花火大会の起源は、当時流行していた疫病の退散を祈願したものだといわれています。今回の取組は花火の原点に立ち返るものとなりました。池本さんは「丹後にはずっとお世話になっており、その恩を返すためにも、これからも花火を上げ皆を笑顔にしていきたい。これは先代社長のお教えでもある」と語っておられました。



花火のように熱く明るい人柄の池本さん



打ち上げ筒も見せていただきました

## 地域

## 荒山未来塾

## 感謝の青いハンカチ

荒山公民館の駐車場では、医療従事者への感謝の意を込めて、300枚もの青いハンカチが掲げられています。

手がけたのは、今年で結成3年目を迎える「荒山未来塾」のメンバーの方々。京丹後市内の業者に協力を頂き、提供していただいた“おしぼり”（上田おしぼり／網野町島津）を美しいブルーへ染め上げ（染織工房嶋津／峰山町安）「青いハンカチ」としました。

看板には、私たちの日常を守ってくれている全ての方々に向けた感謝の言葉が書かれています。



1日でも早く日常が戻ることを願っておられます